

大雪山国立公園の動植物

大雪山国立公園は日本最大級の国立公園です。十勝連峰、石狩連峰、大雪火山群を含み、北海道最高峰の旭岳（2,291m）を有しています。

大雪山の高山気候は多様な動植物を育んでいます。チシマザクラ、チングルマ、カタクリなど、200種以上の高山植物が生息しています。これらの植物種の多くは、北アジア、オホーツク海やベーリング海周辺の地域、そして日本の本州から移動してきたと考えられています。旭岳の亜高山帯には、アカエゾマツやサハリンモミの原生林が茂っています。この生息地では、ウソ、ルリビタキ、サメビタキなどの留鳥や渡り鳥が生息しています。標高の高い草地にはコモウセンゴケやワタスゲの群落があり、エゾトンボなどの寒冷地のトンボも生息しています。

2万年以上前の最後の氷河期から生き残っている動植物もいます。当時の海面は現在より約100メートル低く、北海道はサハリン島を通じてユーラシア大陸と地続きでした。気温と海面が上昇するにつれ、これらの種の生息地は山岳地帯の孤立した地域に限定されるようになりました。これらの遺存種には、高地のチョウの一種、羽のないバツタの一種、ウサギ科の小型哺乳類であるエゾナキウサギなどがいます。